

平成 22 年 12 月 28 日

記者各位

株式会社百五経済研究所
代表取締役社長 雲井 純

2011 年の三重県経済の見通し発表について

弊社では、2011 年の三重県経済の見通しにつき、別紙のようにとりまとめをいたしました。記事、ニュース等で取り上げていただければ幸いと存じます。

なお、ご質問、ご意見などございましたら、下記へお願いいたします。

< 担当 > 地域調査部 中畑（なかはた）、津谷（つたに）
〒514-0033 津市丸之内 9 番 18 号
TEL：059-228-9105 FAX：059-228-9380

三重県経済の見通し概要

< 三重県経済全体の動き >

2011 年前半は踊り場状態が続くが、秋には明るさが見えてくる。

< 生産活動 > 徐々に上向く

自動車関連や薄型テレビなど家電製品関連で年初は調整が残るとみられるが、新型車投入や地デジ化対応による需要などが下支えとなって、比較的早く回復するとみられる。回復が遅れていた工作機械などの一般機械も、国内需要に弱さが残るものの、中国や韓国、台湾など海外からの受注増により持ち直しが進むとみられる。

< 設備投資 > やや回復

企業の設備過剰感はほぼ解消されたとみられ、比較的大きな投資についてもやや回復が見られる。ただし生産能力の増強や新分野進出といった設備投資の動きは多くない。

東芝四日市工場のフラッシュメモリー新工場（第 5 棟）の建設（2010 年 7 月～）や中勢北部サイエンスシティーへの誘致企業など、企業立地に伴う大型投資もあり、地域への波及が期待される。

< 雇用 > 厳しさ続くも回復傾向

企業の雇用過剰感は薄れ、所定外労働時間も増加してきている。しかし、中小製造業でも、大手メーカーの海外生産拡大や国内外企業との競争激化、低価格化など、先行きへの不安から新規採用には慎重な企業が多く、雇用は緩やかな改善に留まると見込まれる。

< 個人消費 > 徐々に改善

エコカー補助金の終了、家電エコポイント制度の縮小による自動車や薄型テレビ等の販売減は春には収まると見込まれ、その後は徐々に改善すると見込まれる。子ども手当の上積みが検討されているが、所得控除等の削減との抱き合わせでの実施が検討されており、消費を刺激する効果は多く期待できない。

< 住宅投資 > 堅調

新設住宅着工戸数は、持家が2010年春以降、分譲住宅についても秋以降持ち直しの動きとなり、11年も堅調な動きが期待される。ただし、貸家については北勢地域を中心に派遣社員削減などの影響で空室が多く残っており、当面回復は難しいと見込まれる。

< 公共工事 > 厳しさ続く

厳しい国の財政状況から2011年度も伸びは期待できず、冷え込んだ状況が続くとみられるが、近畿自動車道紀勢線の延伸工事や、北勢・中勢バイパスの整備が順次進められていること、三重県立博物館の本体工事が始まることなどから、厳しいながらもある程度の工事量は確保できるものと期待される。

< 観光 > 集客増に期待

2009年の宇治橋架け替えを契機に、13年の伊勢神宮ご遷宮へ向けた関係事業者の活動が活発化し、鉄道や主要な旅行会社では伊勢をテーマにした商品が企画され、PRが盛んに行われていることから、集客増が期待できる。

高速道路の無料化実験による観光振興への効果は限定的であったと見られる。

以上